

技術開発完了報告

秋田営林局

課題名	育成天然林施業の体系化												
指示・自主区分	営林局 自主	開発期間	自 昭和61年 至 平成 2年	担当	計画, 造林, 利用								
目標	林分の樹種構成によって林型を区分し, その区分ごとに中, 大径材生産を目標とする具体的施業の類型化を図る												
結果	本課題の試験地はいずれも育成天然林施業指標林として設定している箇所であり, 設定年も昭和 61, 62年であることから, 間伐後の成長データが少なく, 試験本来の目的達成には今後相当の期間が必要と考えられることから一応完了とする。なお, 施業指標林としての所定の調査は継続するので, そのなかで検討していくこととする。			技術開発経費内訳									
				<table border="1"> <tr> <td>物件</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>役務</td> <td></td> </tr> <tr> <td>人件</td> <td></td> </tr> <tr> <td>基</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> </tr> </table>		物件	千円	役務		人件		基	
物件	千円												
役務													
人件													
基													
その他													
合計													
<p>開発経過と調査内容</p> <p>対象署別の試験地概要及び調査内容は別表のとおりである。成長状況のデータ比較は, 経過年数が短いことから一定の方向付けは困難である。</p> <p>1 林型区分</p> <p>林型区分については鶴岡署のみナラ型, 他の3署についてはブナ型に区分した。</p>													

2 調査結果と考察

4署ともS62年からR元年にかけて間伐を実行している。当局管内のブナ二次林の場合は, 一般的には樹高10m程度, 林齢60年頃を目安とし間伐率でブナは30%を目安に, ミズナラは40%以内を目安としているが, 別表により各署の間伐実行状況をこれに照してみると,

★ 米内沢

間伐実行が林齢70年となっており, 間伐率は本数, 材積とも少し低いと考えられ, ブナ混入率が28%と低いにもかかわらず, 他の樹種よりも多いことから林型区分をブナ型としたが, 適当か検討の必要がある。成長状況は直径成長が他署に比較して良好である。

★ 増田

間伐実行は林齢59年となっており, 間伐率は材積で36%と強度に実行している。林分状況は平均直径, 平均樹高とも他署より大きい, 成長量はそれに連動してはいない。

★ 鶴岡

唯一のナラ型の林型を有しており, 間伐実行時期が林齢39年と早い。間伐率は概ね妥当と考えられ, 成長状況も樹高の伸びが旺盛であるが, 間伐が下層木主体のため, 平均値が上がったことも影響している。

★ 新庄

間伐実行は時期, 間伐率とも概ね妥当と考えられ, 成長も樹高成長は際立って良く, 成立本数が多いことからha当り材積も300m<sup>3</sup>近くあり, 順調な生育状況にあるといえる。

成長状況をみると直径成長は他署に比較して

まとめ

間伐の効果については, 今後徐々に現れてくると考えられるが, 成立本数の多小が形質にどのように影響するのか, 枝下高等についても今後の調査に加え, 経過観察を継続していく必要がある。

別表

試験地概要及び調査

署別	試験調査目的	試験地の概要	設定内容			調査項目					摘要
			地況・林況	調査区	面積 ha	調査 時期	ha当り 本数	ha当り 材積 m <sup>3</sup>	直径 cm	樹高 m	
米内沢	広葉樹二次林を間伐し、その後の育成状況を調査する。	間伐実施面積 3.44ha 試験地面積 0.10ha 62年度設定、 プナ型 製炭跡地の二次林 ★ プナ28%	大印沢国有林39林班 む小班 林齢 H 2年時 73年 標高 480m 方位 E 傾斜 中 土壌 BD	全1区	(3.44)	S63	780	141	15.9	15.0	間伐率(S63夏実施) 本数 16% 材積 13% ( )は総成長量 裸は単年度成長量 以下3署も同様
					0.10	H 2	780	169	17.0	15.9	
					成長量	-	14	0.5	0.5		
増田	林分の樹種構成によって林型を区分し、その区分ごとに中、大径材生産を目標とする具体的施業の類型化を図る。	間伐実施面積 1.92ha 試験地面積 0.10ha 61年度設定 プナ型 材積、材径人工林の ★ プナ 50% 成林に至らなかつ 以上 た跡地の二次林	小安奥山外4国有林 39林班ろ6小班 林齢 H 2年時 60年 標高 700m 方位 SE 傾斜 緩 土壌 BD外	全1区	(1.92)	S61	626	147	18.7	13.5	間伐率(H元冬実施) 本数 16% 材積 36%
						H 2	610	205	20.4	15.1	
					成長量	-16	15	0.4	0.4		
鶴岡	更新補助作業、及び除間伐等の保育作業を積極的に行ない、目的とする林型、樹種からなる森林を造成する。	間伐実施面積 4.50ha 試験地面積 0.10ha 61年度設定 ナラ型 製炭跡地の二次林 ★ ナラ 92%	渡戸沢国有林36り林班 わ小班 林齢 H 2年時 42年 標高 190m 方位 N 傾斜 中 土壌 BD外	全1区	(4.50)	S61	1,070	91	16.0	10.0	間伐率(S62冬実施) 本数 20% 材積 24%
						H 2	730	127	18.0	13.8	
					成長量	-340	9	0.5	1.0		
新庄	林分の樹種構成によって林型を区分し、その区分ごとに中、大径材生産を目標とする具体的施業の類型化を図る。	間伐実施面積 3.79ha 試験地面積 0.10ha 62年度設定 プナ型 製炭跡地の二次林 ★ プナ90%	葉山外35国有林 132林班お1小班 林齢 H 2年時 64年 標高 660m 方位 NW 傾斜 中 土壌 BB	全1区	(3.79)	S62	1,210	195	17.0	11.6	間伐率(H元冬実施) 本数 14% 材積 20%
					0.10	H 2	1,180	296	17.9	14.6	
					成長量	-30	34	0.3	1.0		